

2017年11月28日 全4頁

迷走するドイツ政局の行方

内外からの圧力を受け、CDU/CSU と SPD の連立政権続投か

経済調査部
主席研究員 山崎 加津子

[要約]

- ドイツで9月24日の議会選挙を受けた連立政権交渉が難航している。メルケル首相率いる CDU（キリスト教民主同盟）/CSU（キリスト教社会同盟）と、FDP（自由民主党）、緑の党による連立政権（通称：ジャマイカ連立）の樹立に向けた予備協議は、FDP の離脱により11月19日に決裂した。
- メルケル首相に残された選択肢は、(1) SPD（社会民主党）との大連立政権、(2) CDU/CSU と FDP、または CDU/CSU と緑の党の少数与党政権、(3) 再選挙で、本命は大連立政権の続投である。SPD は選挙での大敗を理由にこれを断固拒否するとしてきたが、ドイツに安定した政権の誕生を望む国内外からの声に押され、協議に応じる姿勢に転じた。
- EU 最大の経済規模を有し、フランスと共に欧州統合を推進してきたドイツで不安定な政権が誕生すれば、英国の EU 離脱交渉、EU 改革、ギリシャ支援問題などさまざまな課題に直面している EU にも悪影響が及ぶと懸念される。ジャマイカ連立の協議決裂後もユーロ安、株安、金利上昇といった反応は起きていないが、これはドイツの政治混乱が拡大せず、好調な景気にも悪影響は生じないと予想されているためだろう。
- 大連立政権樹立に向けた協議は一筋縄ではいかないだろうが、国内外から要請されている「安定政権樹立」のために CDU/CSU と SPD がそれぞれ歩み寄ることになると予想する。

ジャマイカ連立を目指した協議の決裂

ドイツで新政権発足に向けた協議が決裂してから1週間が経過した。

周知の通り、9月24日のドイツ連邦議会（下院）選挙のあと、メルケル首相率いる中道右派のCDU（キリスト教民主同盟）は姉妹政党でバイエルン州のみで活動するCSU（キリスト教社会同盟）と共に、中道右派のFDP（自由民主党）、中道左派の緑の党との連立政権樹立に向けた予備協議を開始した。各党のシンボルカラー（CDU/CSU：黒、FDP：黄、緑の党：緑）がジャマイカの国旗の色と同じであるところから、この連立は通称「ジャマイカ連立」と呼ばれる。

過去に例のない連立政権の組み合わせであるだけでなく、環境・エネルギー政策、難民政策などで、親ビジネスのFDP、環境保護や人権重視の緑の党、保守的なCSUの見解の相違が大きく、協議は難航することが予想されていた。他方で、教育、研究・開発、デジタル化推進といった政策を重視するなど共通点もあり、ジャマイカ連立が誕生すれば、関連投資が活性化されるとの期待もあった。しかしながら、1カ月に及んだ予備協議が大詰めを迎え、連立交渉開始の合意文書の発表が近いとみられた11月19日深夜に、FDPのリントナー党首が「信頼関係が構築できなかった」と協議決裂を宣言し、ジャマイカ連立は白紙撤回されてしまった。

9月の議会選挙では与党のCDU/CSUとSPD（社会民主党、中道左派）の得票率が大幅に低下し、SPDは1949年にドイツ連邦共和国（当時は西ドイツ）が誕生して以来最低の、CDU/CSUも同2番目に低い得票率となった。代わって4つの小政党が得票率を伸ばし、前回の2013年の選挙では「得票率5%以上」の要件を満たすことができずに議席を失ったFDPが再び咲いたのに加え、右派のポピュリスト政党であるAfD（ドイツのための選択肢）が初めて国会で議席を獲得した。FDP、AfDのほか、緑の党と左派党も得票率が5%を超えたため、64年ぶりに6つの政党が議席に議席を有することになった。

図表1 ドイツ連邦議会選挙の結果

選挙実施年	1949	1953	1957	1961	1965	1969	1972	1976	1980	1983	1987	1990	1994	1998	2002	2005	2009	2013	2017	
投票率 (%)	78.5	86.0	87.8	87.7	86.8	86.7	91.1	90.7	88.7	89.1	84.3	77.8	79.0	82.2	79.1	77.7	70.8	71.5	76.2	
得票率 (%)	CDU/CSU	31.0	45.2	50.2	45.3	47.6	46.1	44.9	48.6	44.5	48.8	44.3	43.8	41.4	35.1	38.5	35.2	33.8	41.5	32.9
	SPD	29.2	28.8	31.8	36.2	39.3	42.7	45.8	42.6	42.9	38.2	37.0	33.5	36.4	40.9	38.5	34.2	23.0	25.7	20.5
	FDP	11.9	9.5	7.7	12.8	9.5	5.8	8.4	7.9	10.6	7.0	9.1	11.0	6.9	6.2	7.4	9.8	14.6	4.8	10.7
	緑の党	—	—	—	—	—	—	—	—	1.5	5.6	8.3	5.1	7.3	6.7	8.6	8.1	10.7	8.4	8.9
	左派党	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.4	4.4	5.1	4.0	8.7	11.9	8.6	9.2
	AfD	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.7	12.6
獲得議席数	CDU/CSU	139	243	270	242	245	242	225	243	226	244	223	319	294	245	248	226	239	311	246
	SPD	131	151	169	190	202	224	230	214	218	193	186	239	252	298	251	222	146	193	153
	FDP	52	48	41	67	49	30	41	39	53	34	46	79	47	43	47	61	93	—	80
	緑の党	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27	42	8	49	47	55	51	68	63	67
	左派党	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	30	36	2	54	76	64	69
	AfD	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	94
その他	80	45	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	402	487	497	499	496	496	496	496	497	498	497	662	672	669	603	614	622	631	709	

(注1) 1987年までは西ドイツ、1990年以降は統一ドイツ

(注2) 獲得議席数を着色しているのは、当該選挙の結果、与党となった政党

(注3) 左派党は1990年から2002年までは東ドイツの共産党の流れを汲むPDS（民主社会主義党）。その後SPDから分離した左派勢力が合流して左派党となった

(出所) wahlrecht.de のデータより大和総研作成

もともと、CDU/CSU と SPD の議席を合計すれば過半数を占める。ところが、SPD は選挙直後に野党に転じると宣言した。これは与党になることを拒否したのではなく、CDU/CSU を補佐する形で連立政権に加わることを拒否したのである。背景には、2005～2009 年と 2013～2017 年の 2 度の大連立政権を経て、2005 年と 2017 年の選挙の得票率を比較すると、SPD のみ大幅に低下していることがある。連立政権のジュニア・パートナーは存在感を示すことが難しいため、野党に転じて党勢を立て直したい思惑があったのである。ところで、CDU/CSU は選挙前から AfD と左派党とは連立を組まないことを表明していたため、メルケル首相の 4 期目の選択肢はジャマイカ連立のみとなってしまった。そのジャマイカ連立に向けた協議が決裂したことで、メルケル首相の指導力に対する疑念が浮上し、身内である CDU の若手議員からメルケル首相は退任するべきとの意見すら聞かれる。

メルケル首相に残された選択肢

とはいえ、CDU/CSU は他党を大きく引き離れた第 1 党であり、また CDU 内で直ちにメルケル首相にとって代わることができる人材は見当たらない。このため、引き続きメルケル首相を軸に次期政権樹立が試みられると見込まれる。メルケル氏に残された選択肢としては、(1) SPD を説得して大連立政権を続投させる、(2) FDP もしくは緑の党と CDU/CSU との少数与党政権を樹立する、(3) 再選挙に踏み切ることが想定される。

ジャマイカ連立が白紙撤回された直後には、SPD のシュルツ党首が大連立政権は断固拒否するとの意向を改めて表明した一方、メルケル首相が「(少数与党政権よりは) 再選挙が望ましい」と発言したために、再選挙が実施される可能性が高いのではないかとみられた。少数与党政権が前向きに受け止められていないのは、法案ごとに野党の中から支持する政党を確保しなければならず、政権の安定性に欠けるためである。しかしながら、再選挙を実施して安定政権が誕生するかと言え、少なくとも最近の世論調査結果からは 9 月の選挙と大差のない結果が出る可能性が示唆されている。もちろん、世論調査と異なる選挙結果となる可能性もあるが、それが「既存政党に対する失望→AfD の得票率上昇」という既存政党にとってなんとしても回避したい結果になるリスクもはらんでいる。

「安定政権誕生」へ国内外からの圧力が高まっている

安易な再選挙の実施に対しては、首相の任免権を有し、再選挙実施の判断を下すことになるシュタインマイヤー大統領も反対を表明している。大統領はジャマイカ連立に向けた予備協議の決裂後、各政党の党首と個別に面談し、連立政権の樹立に向けて改めて努力するよう説得を試みているが、その主眼は大統領自身の出身母体である SPD に大連立政権の再考を促すことに置かれた。これに対して SPD 内では、大連立にはあくまで反対する意見と、再選挙に消極的で、大連立の可能性を検討するべきという意見とがせめぎ合っている。大連立反対派は、今回大連立を受け入れた場合、4 年後の次の議会選挙では得票率が一段と低下して、SPD が小政党の一員になってしまうのではないかと懸念している。一方、大連立支持派はこのまま再選挙となった

場合、SPD は国の事情より政党の事情を優先させたと批判されることを懸念している。

過半数の議席を有する安定したドイツ新政権の誕生を求める声は、国内はもとより、他の欧州諸国からも高まっている。EU で最大の経済規模を有し、またフランスと共に欧州統合を推進してきたドイツで不安定な政権が誕生すれば、その影響は EU 全域に及ぶ可能性があるとの懸念されているのである。英国の EU 離脱交渉、EU 改革、ギリシャ支援問題など、EU として取り組むべき課題が山積している。ところで、ジャマイカ連立の協議決裂後もユーロ安、株安、金利上昇といった反応は起きていないが、これはドイツの政治混乱が拡大せず、好調なドイツ経済に対する悪影響は生じないと予想されているためと考えられる。

CDU/CSU と SPD による連立協議開始へ

このように国内外からドイツに安定した支持基盤を政権の誕生を求める声が高まる中、SPD のシュルツ党首は 11 月 24 日に大連立政権の可能性を排除しないと表明した。一方、翌 25 日のメクレンブルク・フォアポンメルン州の CDU の党大会で、メルケル首相は再選挙の実施は望ましい選択肢ではないとして前言を撤回した。11 月 30 日にはシュタインマイヤー大統領のもとに CDU、CSU、SPD の党首が一堂に会することになっており、大連立政権に向けた話し合いが行われると見込まれる。

大連立政権樹立に向けた協議は、ジャマイカ連立ほどではないにせよ、一筋縄ではいかないと予想される。ほかに選択肢がなくなった CDU/CSU に対して、SPD が所得税の最高税率の引き上げや、国民皆保険制度の導入（＝民間の健康保険の廃止）などを連立の条件にするのではないかと懸念が早くも CDU/CSU 側から聞かれる。とはいえ、CDU/CSU と SPD は曲がりなりにもこれまで連立政権を組んできた相手であり、まったく新しい組み合わせであった FDP、緑の党との連立に向けた協議に比べてハードルは低いと考えられる。国内外から要請されている「安定政権樹立」のために CDU/CSU と SPD がそれぞれ歩み寄ることになると予想する。ちなみに、11 月 27 日に公表された世論調査会社 Forsa によるアンケート調査では、大連立政権を支持する意見が 40%と最も多く、CDU/CSU と緑の党による少数与党政権の 27%、再選挙の 26%を明確に引き離している。